

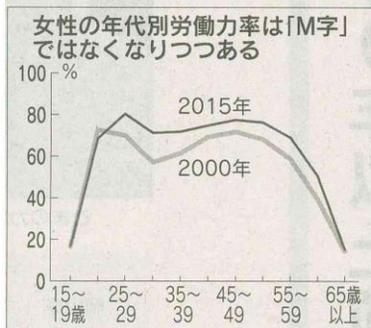
雇用 4年で250万人増

子育て女性働きやすく

M字カーブ解消進む

緩やかな景気回復の下で、雇用者数が伸びている。2016年11月時点で573.3万人となり、直近4年で250万人増えた。特に女性が目立ち、出産や子育てのためにいったん仕事を離れる「M字カーブ」は解消されつつある。男女ともに60代以上の労働参加率も高まった。人口は減り始めており、働く意欲のある女性や高齢者を支える環境整備が課題になる。

雇用者数は安倍政権が発足し、景気回復期にも入った12年12月以降、右肩上がり伸びている。12年12月と16年11月を比べると、250万人増えた。内訳は男性が約80万人、女性が170万人で、女性の増加が大きな要因であることがわかる。



25〜39歳でも働く人の比率が高まっている。育児休暇を取得して職場復帰する女性が増えている。保育所に子どもを預けることができない待機児童問題は解消されていないが、国が保育所の定員を拡大したことが影響した。収入面から夫婦がともに働かなければならない世帯もあるが、00年と比べるとM字カーブは解消に向かっている。

もう一つの要因が60代以上の働き手。男女ともに年金の支給開始年齢を65歳に引き上げ始めており、60歳以上で働く人が増加している。たとえば60〜64歳の男性の労働力率は8割に迫り、65〜69歳も5割を超えている。人数で見ると、65歳以上の雇用者は4年間で男性が100万人近く増え、女性も60万人増えた。日本の人口は08年をピークに、15年は0.8%減の1億2700万人まで減少している。特に15〜64歳はピーク時の1.9

90年代半ばは8700万人いた。15年は1000万人少ない7700万人まで減少している。現役世代の減少を、高齢者の労働力で補っている構図が浮かび上がる。

失業者も含め働く意思を持った労働力人口で見ると、15年は約6598万人と08年の6674万人に迫る勢いだ。現役世代の減少が流通業を中心に人手不足につながり、失業率の低下や有効求人倍率の上昇につながっている。当面は人手不足が続くとみられるが、男性の高齢者の労働参加率は既に相当高い。余地が大きいのは女性高齢者だ。女性は60〜64歳の労働力率が5割、65〜69歳は3割にとどまっている。

企業はパート時給を引き上げたりして人材確保に躍起になっているが、高齢者が働きやすい短時間勤務の制度などを整えていくことが必要になる。高齢者の就労が進めば、年金の一段の支給開始年齢の引き上げなど社会保障制度の見直しも焦点になる。

▼M字カーブ 20代、30代を中心とした出産や子育て期の女性が労働市場からいったん退出する現象のこと。育児が落ちつくとも再就職する女性が多く、働く女性の比率を年齢ごとに見ると「M」の形を描くことからM字カーブと呼ばれる。